

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.54
2017. June

発行者 琉球病院事務部長
有岡 雅之

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

クロザピン登録症例が200例を達成しました。

クロザピンセンター長 木田直也

治療抵抗性統合失調症の治療薬であるクロザピンが国内で使用できるようになって約8年になります。当院でも2010年から重度の精神症状を持つ統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始し、これまでの登録症例数が2017年4月に200例になりました。医療機関別にみると、これは国内でも2番目に多い症例数になります。2015年7月には本邦初となるクロザピン治療専門病棟である東2病棟(56床)がオープンしました。現在、入院部門では東2病棟で約50人、医療観察法病棟で約10人の患者さんにクロザピンによる治療を行い、外来部門では70人以上の患者さんに通院治療を行っています。クロザピンによる薬物療法が土台となり、その上で医師・看護師・心理士・作業療法士・薬剤師・栄養士などの専門職による心理社会的な治療が行われ、検査技師・放射線技師による諸検査により安全性が担保されています。事務部門においては様々な手続きを進めてもらっています。このような多職種によるチーム医療により、重度の精神症状を持つ患者さんの精神症状が大幅に改善し、社会復帰も進んでいます。県内の医療機関とも地域連携を深め、この3年間は新規登録症例の約8割が紹介例となっています。クロザピンは無顆粒球症などの副作用が出現することがあるため、治療開始にあたっては入院治療が必須となります。導入期の入院治療は当院で行い、精神症状が改善し、通院治療に移行後は地域の病院で治療を継続するという「沖縄モデル」を立ち上げ、当院が中心となって運営しています。この地域連携は厚生労働省のモデル事業ともなり、全国的にも注目をされています。この取り組みを成功させることでクロザピン治療の国内での普及に繋がりたいと考えています。



この誌面をお借りしまして、関係者の皆様のクロザピン治療に対する日頃のご尽力・ご協力に改めて感謝申し上げます。今後とも宜しくお願いします。

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
 - 進捗状況 本館工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
 - 新病棟（第2期工事）・・・(株)九電工
 - 雨水配水管盛替工事 完成予定・・・平成29年2月
 - 重症病棟建替等工事 完成予定・・・平成30年10月

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)院内トレーナー養成コース
 - 日時：平成29年6月26日(月)～29日(木) 8:30～17:00
 - 場所：研修棟会議室・ジム室
- ちゃーびら祭 日時：平成29年6月8日(木) 10:00～12:00・13:00～14:00
場所：あしびなあ体育館

地域医療連携室だより

地域医療連携室は、新規の受診相談の窓口となっております。アルコール、児童、一般精神、クロザピン、認知症と専門に特化しており外来、入院相談もお受けしております。本人が受診を拒否してしまう場合は家族相談もお受けしております。受診まで長くお待ちしてしまう場合もありご迷惑をおかけしておりますが、受診についての相談は地域医療連携室までお問い合わせください。



空床状況
5月29日現在

精神科病棟
3床

認知症
6床

アルコール
9床

児童思春期ユニット
1床

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 80床
- ・医療観察法 37床



アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス(77番名護東線)浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向う5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

国立病院機構通信

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234

地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピリンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピリン(CLZ)治療を開始し、全症例は207例になりました。平成29年4月のCLZ導入は5例で、このうちの4例は他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年4月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

子どものトラウマ治療として有効性が実証されている介入技法の1つとしてトラウマフォーカス認知行動療法(TF-CBT)があります。トラウマ体験によりPTSD関連症状が表れ、日常生活に何らかの支障が生じている、概ね3～18歳の子どもの家族や養育者が対象となる心理療法です。

今回当院では、県内で子どもの心の診療に携わる医療関係者を対象に、子どものトラウマ治療の第一線でご活躍されておられる、兵庫県こころのケアセンターの亀岡智美先生をお招きして、TF-CBTを中心とした、子どものトラウマやケアについてご講演いただきます。関心のある方はぜひご参加ください。研修に関するお問い合わせはメールにてお願いします(メール: ryukyu-kodomo@ryu-ryukyu.jp 担当: ソーシャルワーカー佐藤)。日時: 平成29年7月3日(月)～4日(火) 場所: 琉球病院 研修棟3階会議室

認知症医療

2017年5月26・27日の両日、沖縄コンベンションセンターにて第18回日本認知症ケア学会大会「認知症と共に生きる～私も、あなたも、みんなも～」が開催されました。当病棟からは認知症病棟におけるユマニチュードの効果的な学習会の検討～学習会に独自の視覚教材を取り入れた効果～と題し、上里解がポスターセッションによる発表を行いました。ユマニチュードが認知症患者に有効と言われ、昨年度から当病棟においても導入を行いました。しかし、職員個々においてユマニチュード導入に関する必要性に差があり、今年度は効果的な導入を試みてユマニチュードの講義と技術指導による学習会をビデオ撮影し、視覚教材として活用し学習しやすい環境調整に努めました。その結果、職員の学習効果を高めることとなり、今年度はスタッフ全員がユマニチュードの必要性を感じたとの結果が得られました。対応困難な患者にユマニチュードを実践することで、患者の表情や行動に変化が見られ安心してケアを受けていると感じられる場面を目の当たりにし、職員のやりがいにも繋がっています。どうすれば認知症患者が安心してケアを受けられるのかを考えて行動し、患者の立場に立ち、患者の気持ちに近づこうと努力する看護を東Ⅲ病棟は看護実践していきたいと思っております。

重症心身障がい医療

児者一貫制度の維持継続が決定されました。平成24年、障害児の施設に入所している成人の障害者については障害者総合支援法が適用される事になり、満18歳以上の障害者は、障害者施設に移行することとなりました。しかし、重症心身障害児者の特性に鑑み、医療型障害児入所施設と療養介護が一体的に実施できる特例措置が講じられていました。成長した後でも本人をよく知る職員が継続して関わられるようにするなど、児者一貫した支援が行われています。施設の移行状況を見ると児童と成人を分離した施設形態をとる事の困難さがみられます。厚生労働省は、平成29年3月、特例措置の恒久化を決定しました。児童と成人で区分せず、職員や設備の共用が認められた事になります。利用者の年齢や状態に応じた適切な日中活動の提供が求められています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では2月現在、外来通院の患者様78名、入院中の患者様28名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

現在、訪問看護登録者は260名となっております。訪問看護範囲は北部全域から、中部地区は浦添市までを担当範囲としております。訪問看護スタッフ14名で月曜日～水曜日は5チーム、木曜日～金曜日は6チーム、土曜日は1チーム体制で病状に即した対応が速やかに出来る様になっています。又、入院中からケア会議へ参加しご家族や地域の支援者と連携を図り、利用者様が地域で安定した生活が行えるよう、包括的な訪問看護を展開しております。

5月はゴールデンウィークを終え、梅雨の季節となり環境の変化で「疲れやすい、なんとなく気分が落ち込む」等、5月病を感じている方も多いと思われれますが、この時期を乗りきるために、健康管理には十分に留意していきましょう。

臨床研究部活動状況

【平成28年度臨床研究部活動報告】

平成28年度琉球病院臨床研究の活動状況をお知らせいたします。平成28年度は、論文文化されたものが7本、学会発表が36本でした。前年度と比較すると論文数はほぼ同数で、学会発表は11本増えました。巻頭にありますように木田医師が中心となって進めておりますクロザピリンに関する研究を始め、医療観察法に関する研究は継続しており、新たにDPATに関する研究が始まりました。当院は災害医療の拠点病院としての役割を担っており、DPATの活動が目立っております。今年度も質の高い医療につながる研究を進めていきたいと思っております。